

助成者	山口 竜生	活動期間	2016年4月～2017年3月
所属機関	特定非営利活動法人 日本ミャンマー豊友会	職名	事務局長

ミャンマー連邦共和国でのゴミ分別及び処理の教育及び実施 フォローとモデル化及び他地区への水平展開

【活動場所】ミャンマー 南シャン州ニャウンシュ マインタック村

【事業目的】風光明媚なインレー湖一帯も、近年生活排水や農薬汚染、ゴミの不法投棄などにより環境悪化が著しく進んでいる。本事業は、インレー湖東岸マインタック村における住民たちによるゴミ削減への取組みに対して、そのゴミ分別・焼却活動を集中支援することで当村をモデル地域とし、その活動を周辺地域へ水平展開させてインレー湖の環境保全を目指す。支援の一つとして日本から焼却炉を寄贈するため、その使用と維持管理の指導を含めて、ゴミ削減プロジェクトと環境教育の実践活動をフォローする。

若手環境リーダー養成のための日本への視察研修



焼却炉の説明を通しての環境教育の様子



【活動内容】

- ①子供たちへの環境教育：子ども・高校生向け研修、ゴミの種類調査、ゴミ拾い活動
- ②教師への環境問題教育 ③竹酢液を活用した生ゴミ堆肥化講習
- ④ゴミ分別啓発のバナー設置 ⑤焼却場の簡易柵設置：不法投棄対策
- ⑥竹酢液代替え品としての粉酢液の採取 ⑦燻炭器による粉炭・粉酢液の採取試行
- ⑧ミャンマー若手技師2名の日本への留学：日本の市民が環境問題へ取り組む状況や産業廃棄物を再生エネルギーとして展開する団体や企業など8ヶ所を訪問

【活動成果】

事業は3年の予定であったが、活動団体側の現地派遣員常駐が困難となり1年で終了。日本の専門家による焼却炉の活用指導も実現できず、焼却炉の使用及び維持管理は課題を残した。一方で日本へ留学した若手2名は、インレー湖が農薬汚染で水質汚濁が進んでいることもあり、竹炭と竹酢液の製造工程や無農薬農法に関して興味を示していた。彼らが若手環境リーダーとなり、1年間実施された活動が継続および発展していくことを期待したい。